

2018年度 東邦音楽大学 パフォーマンス総合芸術文化専攻 シラバス

— 目 次 —

基礎教育科目(外国の言語と文化を含む)

東邦スタンダードA	1
東邦スタンダードB	3
日本国憲法と生活A	5
日本国憲法と生活B	7
ひとを読み解く科学A	9
ひとを読み解く科学B	11
情報スキルA	13
情報スキルB	15
Basic English 1	17
Basic English 2	19
Communication Skills I A	21
Communication Skills I B	23

音楽専門教育科目・共通専門教育科目

作曲家の肖像と作品の魅力 I A	25
作曲家の肖像と作品の魅力 I B	27
西洋音楽史A	29
西洋音楽史B	31
東洋音楽史A	33
東洋音楽史B	35
日本音楽史A	37
日本音楽史B	38
音楽の基礎理論	39
音楽の基礎理論(基礎和声を含む)	41
P. A. C. S 1	43
P. A. C. S 2	45
ポップス・ボーカルアプローチA	47
ポップス・ボーカルアプローチB	49

人間教育科目

ヒューマンコミュニケーション 1	51
------------------	----

科目名(クラス)	東邦スタンダードA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	中島 裕紀	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。								
【授業の到達目標】								
学生生活の基礎的知識を把握することができる。 スタディスキルを身につける。 コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用することができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業である。一人一人が積極的に 授業に貢献しようと心がけること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
前記授業初回および最終回に記入するポートフォリオ30%、セメスター終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。								
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	学生生活における危機管理・非常時に対する備え・防災心得				学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。			
第2回	オリエンテーション ・東邦スタンダードとは・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入) ・学生生活について				配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。 学生生活を円滑に送ることができるように内容を確認する。			
第3回	防犯講話 ・学生生活における防犯上の諸注意・大麻(薬物)の危険性と犯罪について				配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。 防犯意識を持つ。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	講話 「いのちの授業～一人ひとりに授けられた奇跡としての『いのち』を考 える～」 ・愛和病院の講師による講演	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。 命という最も大切なことについて目を向け、 日常の中で関連事項に目を向ける。
第5回	高校生から大学生へ ・大学生の学び方 ・聴く態度 ・グループ討議入門	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。日々の学生生活での実践に努める。
第6回	大学生としてのマナー ・学生生活の基本 ・コミュニケーション力	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。日々の学生生活での実践に努める。
第7回	授業の受け方 ・受講態度について ・ノートテイクの基本 ・新聞の読み方 ・情報収集の仕方	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。日々の学生生活での実践に努める。 新聞に目を通す習慣を身に付ける。
第8回	消費生活講座 ・ネットトラブル、架空請求等の悪徳商法の被害を防ぐために	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。 日常生活でトラブルにならないように講話を 生かす。
第9回	情報検索 ・図書館の活用方法 ・資料検索の方法 ・ネット検索の仕方	検索方法を習得し、日々の勉強に役立てる ように努める。
第10回	労働法セミナー ・アルバイト等「労働」する場合のルール、働く人の持つ権利等 につ いて	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。 実際のアルバイト等の現場に知識を生か す。
第11回	レポートの書き方 ・レポート提出の流れ ・レポートを書く上での注意	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。日々の学生生活での実践に努める。
第12回	講話 「音楽に関わる仕事」1	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。日々の学生生活での実践に努める。
第13回	講話 「音楽に関わる仕事」2	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。日々の学生生活での実践に努める。
第14回	コミュニケーションの基本 ・コミュニケーションの重要性 ・アサーション ・質問力	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努 める。日々の学生生活での実践に努める。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	本授業のみならず、各自のレッスンや授業 への取り組みについて、具体的に振り返る。

科目名(クラス)	東邦スタンダードB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	中島 裕紀	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。								
【授業の到達目標】								
学生生活の基礎的知識を把握することができる。 スタディスキルを身につける。 コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用することができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業である。一人一人が積極的に 授業に貢献しようと心がけること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
前記授業初回および最終回に記入するポートフォリオ30%、セメスター終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。								
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	振り返りと目標設定 ・夏休みの振り返り ・後期目標設定(ポートフォリオ記入)				夏休みを振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。			
第2回	OB/OG講演会・本学卒業生による講演会				予習:講師への質問を考えておく 復習:講演会で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる			
第3回	タイムマネジメント ・計画・進捗管理 ・PDCAサイクル				配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	大学生のためのマネー講座 税金の仕組み	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。
第5回	伝える力1 ・話し方チェック PREP法 YES・BUT法 円滑なコミュニケーションを図る話し方、相手に伝わりやすい話し方	授業で学んだ内容を日常生活の中で実際に応用して実践する。
第6回	年金講座 ・国民年金について	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。
第7回	情報リテラシー ・情報収集における留意点 ・SNS等の利用マナー、文献引用のルールについて	学習の内容を日常生活に生かし実践する。
第8回	伝える力2 ・雑談力を高める コミュニケーションをより円滑にするための「雑談」実践ワーク	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第9回	グループディスカッション1 ・グループディスカッションの進め方	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第10回	伝わる書き方 ・文章表現の基本	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第11回	海外経験者の体験談を聴く	予習:講師への質問を考えておく 復習:印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第12回	質問力を身に着けよう ・良い質問とは(インタビューワーク)	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第13回	プレゼンテーション基礎 ・プレゼンテーションの基礎知識 プレゼンテーションワーク ・グループワーク	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第14回	グループディスカッション2 ・ディスカッションワーク ・個人ワーク ・プレゼンテーション	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	本授業のみならず、各自のレッスンや授業への取り組みについて、具体的に振り返る。

科目名(クラス)		日本国憲法と生活A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員		川端敏朗	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】									
私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法、たとえば民法、会社法、消費者法、特に国際関係法の仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているのかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようにします。									
【授業の到達目標】									
法の果たす機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガル・マインドを身につけることができるようにし、近年の国際化に鑑み広い視野に立った判断をし、法的な事象について具体的な考察ができるようにします。									
【授業の「方法」と「形式」】									
・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自らが考察、発言できるようにします。また、資料などを用い具体例も明示します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認してください。受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また受講中には携帯電話の操作をしないようにしてください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
・定期試験およびレポート(60%)、受講中の熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に判断します。									
教科書	プライマリー法学			著者等	茂野隆晴編著		出版社	芦書房	
教科書				著者等			出版社		
参考文献	ポケット六法			著者等			出版社	有斐閣	
参考文献				著者等			出版社		
【授業計画・内容・準備学習】									
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)				
第1回	現代社会での法の果たす役割				予習:教科書の該当項目を熟読し、具体的な事例を思い描いてみる。 復習:現実に法が果たしている役割を整理しておく。				
第2回	法と道徳、法の目的				予習:教科書の法と道徳に関する事項をよく読んでおく。 復習:法と道徳について整理しておく。				
第3回	法の存在形式、法の分類				予習:教科書の法の存在形式、法の分類に関する事項についてよく読んでおく。 復習:講義で扱った法の存在形式、法の分類を整理しておく。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	法の適用と解釈、法の効力－実質的効力と形式的効力	予習:教科書の法の適用、解釈に関する項目を読んでおく。 復習:法の適用と解釈、法の効力について整理しておく。
第5回	日本国憲法の基本原理－日本国憲法の柱になることが何であり、どのような機能を果たしているかについて考える。	予習:教科書で日本国憲法の基本原理に関する項目を読んでおく。 復習:日本国憲法の基本原理の内容について整理しておく。
第6回	基本的人権とは－人権保障のカatalog、基本的人権の一般原則、公共の福祉	予習:教科書で基本的人権の一般原則に関する項目を読んでおく。 復習:日本国憲法の基本的人権の一般原則、公共の福祉の内容について整理しておく。
第7回	基本的人権の種別－平等権、自由権、社会権、参政権、請求権、義務	予習:教科書で基本的人権の種別について確認しておく。 復習:基本的人権の内容について整理しておく。
第8回	国会、内閣、裁判所の働き	予習:教科書の国会、内閣、裁判所の項目について読んでおく。 復習:国会、内閣、裁判所の働きについて整理しておく。
第9回	民法(財産法)－物権や債権	予習:物の所有や売買について考えてみる。 復習:物権や債権について整理しておく。
第10回	民法(家族法)－親族や相続、遺留分	予習:教科書で家族法についてみる。 復習:親族や相続について整理しておく。
第11回	商法－会社法、有価証券法	予習:会社や手形、小切手の利用について考えてみる。 復習:会社、手形、小切手について整理しておく。
第12回	消費者保護のための法律－特定商取引法、消費者契約法	予習:消費者保護のための法律について考えてみる。 復習:特定商取引法や消費者契約法の内容について整理しておく。
第13回	国際公法について－条約、国際慣習法	予習:教科書で条約や国際慣習法について確認しておく。 復習:条約や国際慣習法について整理しておく。
第14回	国際私法について－国際間取引、国際結婚	予習:教科書で国際間取引や国際結婚について教科書、ノートで確認しておく。 復習:国際的取引や国際結婚について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習:この講義で扱った事項について教科書、ノートで確認しておく。 復習:講義で扱った事項を整理しておく。

科目名(クラス)	日本国憲法と生活B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	川端敏朗	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法、たとえば民法、会社法、消費者法、特に国際関係法の仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようにします。								
【授業の到達目標】								
法の果たす機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガル・マインドを身に付けることができるようにし、近年の国際化に鑑み広い視野に基づく判断をし、法的な事象について具体的な考察ができるようにします。								
【授業の「方法」と「形式」】								
・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自らが考察、発言できるようにします。また、資料などを用い具体例も明示します。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認してください。受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また受講中には携帯電話の操作をしないようにしてください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・定期試験およびレポート(60%)、受講中の熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に判断します。								
教科書	プライマリー法学			著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房	
教科書				著者等		出版社		
参考文献	ポケット六法			著者等		出版社	有斐閣	
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	法の基本的な機能				予習:教科書の該当項目を熟読し、具体的な事例を思い描いてみる。 復習:法が果たしている役割を整理しておく。			
第2回	国家と法				予習:教科書の国家と法の項目について読んでおく。 復習:講義で扱った国家と法について整理しておく。			
第3回	日本国憲法の全体像				予習:教科書の日本国憲法の最初の項目を読んでおく。 復習:講義で扱った日本国憲法の全体像について整理しておく。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	基本的人権(人権確保のための制度など)	予習:教科書の基本的人権の項目をよく確認しておく。 復習:基本的人権の内容について整理しておく。
第5回	国会、内閣、裁判所の地位、権能	予習:教科書で国会、内閣、裁判所の地位について教科書で確認しておく。 復習:国会、内閣、裁判所について整理しておく。
第6回	地方自治の仕組み、憲法改正	予習:地方自治の仕組みや憲法改正について考えてみる。 復習:地方自治の仕組みや憲法改正について整理しておく。
第7回	裁判所の種類と審級、違憲法令審査権	予習:裁判所の働きについて考えてみる。 復習:裁判所の働きについて整理しておく。
第8回	犯罪と刑罰(刑事法)	予習:教科書で刑法や刑事訴訟の内容について見ておく。 復習:犯罪と刑罰に関する事項について確認しておく。
第9回	裁判の手続き(民事裁判)	予習:教科書の民事裁判に関する事項を確認しておく。 復習:民事裁判の手続きについて整理しておく。
第10回	裁判の手続き(刑事裁判)、裁判員制度	予習:教科書の刑事裁判や裁判員制度の項目を確認しておく。 復習:刑事裁判や裁判員制度について整理しておく。
第11回	意思表示と契約	予習:意思表示、契約について考えてみる。 復習:意思表示の過程や契約について整理しておく。
第12回	不法行為	予習:不法行為について、教科書で確認しておく。 復習:不法行為の内容について整理しておく。
第13回	国際公法について一条約、国際慣習法	予習:条約や国際慣習法について考えてみる。 復習:条約や国際慣習法について整理しておく。
第14回	国際私法について一国際間取引、国際結婚	予習:国際間取引や国際結婚について考えてみる。 復習:国際間取引や国際結婚について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習:この講義で扱った事項について教科書、ノートで確認しておく。 復習:講義で扱った事項を整理しておく。

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
『ひと』とは何か、『ひとの性格(キャラクター又はパーソナリティ)』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする願い・ねらい・思い」は心理学を学ぶ人間にとって切実な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なる以上、科学的な根拠(＝心理学的な知識や考え方)が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに自分自身を多面的に理解し、ひとを多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。Aの授業は、『自分自身を深く理解すること』を取り上げます。								
【授業の到達目標】								
心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目的です。『ひと』を分かるようになるためには、その内面を正面から受け止めて、心理的な事実やそれに対する感情、願望への理解を深めることによって、『ひと』がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか、それを多面的に認識できるようにしていきます。なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。最終的には、皆さんが「自分自身」を心理学的な視点で「サポート」できるようになることを目標とします。								
【授業の「方法」と「形式」】								
授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
テキストの購入は不要ですが、配布物が多くなります。配布物はこの科目専用の「緑ファイル」に入れて、各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業時間内で、「配布物への記入と提出が求められる」場合があります。教員から指示があったら、当日中に提出してください。これは総合評価の一部とします(50%分です)。 最終講義日までに解説した「毎回の授業テーマ」の中から、現在の自分自身がかかえる心理的課題は何か、それをどのように理解したか、どのように解決していくかを考え、今日から(明日から)始めることは何か、「配布したもの」をもとに「授業内」で具体的に書けるようにしていきます(50%分です)。 これは何か1つの正解を求めているのではなく、「学習し獲得した知識や学び得た方法を選んで、(感想文ではなく)自分の言葉で、自分の心理的な課題の理解をすすめる、その根拠や理由とともに【科学的に】説明できているか」を基準に、評価をします。								
教科書	なし		著者等		出版社			
教科書	なし		著者等		出版社			
参考文献	面白いほどよくわかる！自分の心理学		著者等	渋谷昌三 (2013)	出版社	西東社		
参考文献	図解 相手の気持ちをきちんと聞く技術		著者等	平木典子	出版社	PHP		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	授業インフォメーション 序章:自分が分かる心理学 その1				復習:授業で指示された課題を、必ず提出する			
第2回	序章:自分が分かる心理学 その2				予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する			
第3回	第1章:人間関係で落ち込まないための心理学 その1				予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	第1章:人間関係で落ち込まないための心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第5回	第2章:不安をプラスに変える心理学 その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第6回	第2章:不安をプラスに変える心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第7回	第3章:心の悩みを解決する心理学 その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第8回	第3章:心の悩みを解決する心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第9回	第4章:周りの人を味方に変える心理学 その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第10回	第4章:周りの人を味方に変える心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第11回	第5章:自分をコントロールするための心理学 その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第12回	第5章:自分をコントロールするための心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第13回	第6章:弱い心やコンプレックスに打ち勝つための心理学 その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第14回	第6章:弱い心やコンプレックスに打ち勝つための心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第15回	★★★前期まとめ(心理学で理解した「自分の心」を、学んだ知識や事実で説明する)	予習:前期の授業内容を何度も何度も確認しておく

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
『ひと』とは何か、『ひとの性格(キャラクター又はパーソナリティ)』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする願い・ねらい・思い」は心理学を学ぶ人間にとって切実な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なる以上、科学的な根拠(＝心理学的な知識や考え方)が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに自分自身を多面的に理解し、ひとを多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。 Bの授業は、『人間関係のクセやパターンを深く理解すること』を取り上げます。								
【授業の到達目標】								
心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目的です。『ひと』を分かるようになるためには、その内面を正面から受け止めて、心理的な事実やそれに対する感情、願望への理解を深めることによって、『ひと』がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか、それを多面的に認識できるようにしていきます。なお、「心理学そのもの」については、「現代の心理学A・B」を先に履修することをおすすめします。 最終的には、皆さんが「自分自身」を心理学的な視点で「サポート」できるようになることを目標とします。								
【授業の「方法」と「形式」】								
授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
テキストの購入は不要ですが、配布物が多くなります。配布物はこの科目専用の「黄色ファイル」に入れて、各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業時間内で、「配布物への記入と提出が求められる」場合があります。教員から指示があったら、当日中に提出してください。これは総合評価の一部とします(50%分です)。 最終講義日までに解説した「毎回の授業テーマ」の中から、現在の自分自身がかかえる心理的課題は何か、それをどのように理解したか、どのように解決していくかを考え、今日から(明日から)始めることは何か、「配布したもの」をもとに「授業内」で具体的に書けるようにしていきます(50%分です)。 これは何か1つの正解を求めているのではなく、「学習し獲得した知識や学び得た方法を選んで、(感想文ではなく)自分の言葉で、自分の心理的な課題の理解をすすめ、その根拠や理由とともに【科学的に】説明できているか」を基準に、評価をします。								
教科書	こころの冒険ゲーム(絶版の場合は↓を使用)		著者等	渋谷昌三・岡本正善		出版社	法研	
教科書	図解 相手の気持ちをきちんと聞く技術		著者等	平木典子		出版社	PHP	
参考文献	図解 よくわかる人間関係の心理学		著者等	碓井真史 監修		出版社	ナツメ社	
参考文献			著者等			出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	授業インフォメーション 第1章 あなた自身の対人関係のクセを知ろう その1			復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				
第2回	第1章 あなた自身の対人関係のクセを知ろう その2			予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				
第3回	第1章 あなた自身の対人関係のクセを知ろう その3			予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題を、必ず提出する				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	第1章 あなた自身の対人関係のクセを知ろう その4	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第5回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その1	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第6回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その2	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第7回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その3	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第8回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その4	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第9回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その5	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第10回	第3章 複雑な職場・学校・グループ関係をうまく泳ぐ その1	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第11回	第3章 複雑な職場・学校・グループ関係をうまく泳ぐ その2	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第12回	第3章 複雑な職場・学校・グループ関係をうまく泳ぐ その3	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第13回	第3章 複雑な職場・学校・グループ関係をうまく泳ぐ その4	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第14回	第3章 複雑な職場・学校・グループ関係をうまく泳ぐ その5	予習: 前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習: 授業で指示された課題を、必ず提出する
第15回	★★★後期まとめ(人間関係を理解する総合力を確かめる)	予習: 後期の授業で学んだことを、自分の言葉と心理学的な根拠で説明できるようにする 復習: なし

科目名(クラス)	情報スキルA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	佐久間 誠	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
パソコン操作でのオリジナル楽曲制作(GarageBand使用)、映像制作(iMovie)を作業分担にて行い、さらには完成楽曲の情報発信(Youtube,SNS)まで、次世代の主流となり得る制作の流れを体験します。初心者、未経験者でもできる範囲での操作作業で、且つプロクオリティを目指します。各分野におけるスキルアップを目指すきっかけ的な授業になればと思います								
【授業の到達目標】								
技術的には基本的なパソコン操作の習得と音楽ソフトの基本的なMIDI入力、ループ素材の扱い方など、スマートフォンからの動画の取込み、トリミングなどの簡単な動画編集。感性的には、徐々に形になっていく作品からの幸福感、または迷走感、完成した作品からの達成感を感じ、何が得意で何が不得意だったかを見出す。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
授業の大半はパソコン操作ですが、楽曲制作中、数名に歌唱頂く事があります。強要はしませんが積極的に参加いただくことを望みます。また動画撮影を生徒さんのスマートフォンで行う予定ですが、すでに撮影済みのファイルやインターネット上の著作権フリー動画素材の使用でも構いません。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)。授業への積極性、受講態度(30%)。								
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	原曲制作の制作～作詞、作曲、編曲のイメージ				シラバスを読んでおく			
第2回	初歩的なパソコン操作の学習とプリプロダクション							
第3回	編曲 I ～プリプロを元に構成を考える							

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	編曲Ⅱ～リズム制作	
第5回	編曲Ⅲ～コード感の見直しと装飾	
第6回	編曲Ⅳ～FX(効果音)による装飾	
第7回	編曲Ⅴ～ギターを入れてみよう	
第8回	声素材の録音Ⅰ～主旋、副旋律、ハモリ、コーラス	歌詞とメロディを覚えておく
第9回	声素材の録音Ⅱ～メロダインでの音程とタイミング補正、ハモリの制作	
第10回	ミックスダウン～バランス、定位、エフェクト	
第11回	マスタリングの必要性～簡易マスタリング	
第12回	映像制作Ⅰ～制作音源を元に素材撮影	
第13回	映像制作Ⅱ～撮影素材の取込み、編集	
第14回	メディアへの発信	発信先の情報収集
第15回	作品の総評～反省、評価、後期からの目標	

科目名(クラス)	情報スキルB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	佐久間 誠	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
パソコン操作でのオリジナル楽曲制作(GarageBand使用)、映像制作(iMovie)を作業分担にて行い、さらには完成楽曲の情報発信(Youtube,SNS)まで、次世代の主流となり得る制作の流れを体験します。初心者、未経験者でもできる範囲での操作作業で、且つプロクオリティを目指します。各分野におけるスキルアップを目指すきっかけ的な授業になればと思います。								
【授業の到達目標】								
技術的には基本的なパソコン操作の習得と音楽ソフトの基本的なMIDI入力、ループ素材の扱い方など、スマートフォンからの動画の取込み、トリミングなどの簡単な動画編集。感性的には、徐々に形になっていく作品からの幸福感、または迷走感、完成した作品からの達成感を感じ、何が得意で何が不得意だったかを見出す。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
授業の大半はパソコン操作ですが、楽曲制作中、数名に歌唱頂く事があります。強要はしませんが積極的に参加いただくことを望みます。また動画撮影を生徒さんのスマートフォンで行う予定ですが、すでに撮影済みのファイルやインターネット上の著作権フリー動画素材の使用でも構いません。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)。授業への積極性、受講態度(30%)。								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	原曲制作の制作～作詞、作曲、編曲のイメージ			前期制作の反省を元に考える				
第2回	プリプロダクション～全体像の確立							
第3回	編曲 I ～リズム制作							

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	編曲Ⅱ～コード感の見直しと装飾	
第5回	編曲Ⅲ～FX(効果音)による装飾とオーバーダブ(ギターなど)	
第6回	声素材の録音Ⅰ～主旋、副旋律、ハモリ、コーラス	歌詞とメロディを覚えておく
第7回	声素材の録音Ⅱ～ボーカロイドに歌詞入力	
第8回	声素材の録音Ⅲ～メロダインでの音程タイミング補正、ハモリの制作	
第9回	ミックスダウン～バランス、定位、エフェクト	
第10回	マスタリングの必要性～簡易マスタリング	
第11回	映像制作Ⅰ～制作音源を元に素材撮影	
第12回	映像制作Ⅱ～撮影素材の取込み、編集	
第13回	メディアへの発信	発信先の情報収集
第14回	Re-MIX～完成データ、ステムによる簡単なリミックス	
第15回	作品の総評～反省、評価	

科目名(クラス)	Basic English 1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Basic English は1と2で構成される。Basic English 1では、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることを目的とする。そのために、第一回目の授業では習熟度確認テストを実施し、自身の英語力を確認することから始める。第2回目以降の授業では、講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなどの口頭発表を通して、英語を総合的に運用するための基礎を作る。								
【授業の到達目標】								
Basic English 1は、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにする。 ・やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Basic English1では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(25%) 授業への貢献(25%) 小課題(25%) 期末確認テスト(25%)								
教科書	初回授業にてお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション 習熟度確認テスト ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。			
第2回	English training (1) 口頭発表				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training (2) 口頭発表				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training (3) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training (7) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training (8) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (9) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (10) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (11) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (12) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	
第15回	総括	

科目名(クラス)	Basic English 2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Basic English 2は、Basic1に引き続き、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることを目的とする。第一回目の授業ではBasic1で習得した単語や表現などを活用して、あるテーマについて口頭発表を行う。第2回目以降の授業では、講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなどの口頭発表を通して、英語を総合的に運用するための基礎を作る。								
【授業の到達目標】								
Basic English 2は、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにする。 ・やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Basic English2では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(25%) 授業への貢献(25%) 小課題(25%) 期末確認テスト(25%)								
教科書	初回授業にてお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション 口頭発表 ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります				予習◇英語で口頭発表をしてもらいます。 テーマは授業時にお伝えします。			
第2回	English training (1) 口頭発表				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training (2) 口頭発表				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training (3) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training (7) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training (8) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (9) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (10) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (11) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (12) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	
第15回	総括	

科目名(クラス)	Communication Skills I A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】							
Communication Skillsは、I AとI Bで構成される。Communication Skills I A では、日常における会話や手紙やメールSNSなどを想定し、コミュニケーションスキルを向上させることを目的とする。I AとI Bにおいて様々な場面を想定し、ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど細かく確認しながら)。							
【授業の到達目標】							
Communication Skills I A における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、適切な表現(文法、語彙、発音、表現など)を活用できるようにする。 ・「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにする。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
Communication Skills I A では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業参加(25%) 授業への貢献(25%) 小課題(25%) 期末確認テスト(25%)							
教科書	初回授業にてお知らせします		著者等		出版社		
教科書			著者等		出版社		
参考文献			著者等		出版社		
参考文献			著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります			予習◇英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。			
第2回	English training for communication(1) 口頭発表			予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training for communication (2) 口頭発表			予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training for communication (3) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) □頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	
第15回	総括	

科目名(クラス)	Communication Skills I B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
Communication Skills I B は、Communication Skills I A に引き続き、日常における会話や手紙やメールSNSなどを想定し、コミュニケーションスキルを向上させることを目的とする。I AとI Bにおいて様々な場面を想定し、ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションをとるための要点を学修する(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなども細かく確認しながら)。								
【授業の到達目標】								
Communication Skills I B における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、適切な表現(文法、語彙、発音、表現など)を活用できるようにする。 ・「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
Communication Skills I B では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
授業参加(25%) 授業への貢献(25%) 小課題(25%) 期末確認テスト(25%)								
教科書	初回授業にてお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります							
第2回	English training for communication(1) 口頭発表				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			
第3回	English training for communication (2) 口頭発表				予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	English training for communication (3) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) □ 頭発表	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	
第15回	総括	

科目名(クラス)	作曲家の肖像と作品の魅力ⅠA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	山崎 明美	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
作曲家の肖像と作品の魅力ⅠA・Bでは、声楽曲を扱う。 歌とは何か、歌の可能性とは何か。時を超え、国を越えて私たちの耳に届く調べは、先人達の問いかけである。幅広く作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとり、新しい音の中にも脈々と流れている先人の足取りを辿る事で、自らの答えを導きだしていくことを授業の目的とする。ⅠAでは、約1600年から約1850年までを講義する。								
【授業の到達目標】								
クラシックの声楽曲の源流を理解する。現代なお演奏される声楽曲の背景である時代、作曲家についての知識を持つ。 歴史を理解した上で、時代と共に変化する歌の捉え方を説明できる。歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べる事が出来る。以上のことを到達目標とする。								
【授業の「方法」と「形式」】								
作曲家及びその時代について教授し、視聴覚機器も用いる。準備学習の成果を発表する機会も設ける。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
各自が積極的に課題に取り組む必要がある。常に十分な準備学習を行い、発表の際は資料作成及び音源の選択もする事。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
成績評価は以下の三点により行う。 1. 授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど) 30% 2. 授業内でのプレゼンテーション 30% 3. 学期末の試験 40% 上記三項目のいずれもそろっていること。								
教科書	特定の教科書は用いない。授業の中で指示する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献	授業中で指示する。			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	はじめに 各回の講義におけるテーマについて				予習:シラバスを読んで各回の内容を把握しておく 復習:興味を持った内容について調べる。			
第2回	モンテヴェルディとパーセル その肖像と作品の魅力				予習:モンテヴェルディ、パーセルについて調べる またその声楽作品を聴く 復習:興味を持った視点(テーマ)について調べる。			
第3回	ヴィヴァルディとペルゴレージ その肖像と作品の魅力				予習:ヴィヴァルディ、ペルゴレージについて調べる。またその声楽作品を聴く 復習:興味を持った視点(テーマ)について調べる。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	バッハとヘンデル その肖像と作品の魅力	予習: バッハ、ヘンデルについて調べる またその声楽作品を聴く。 復習: 時代を理解し、同時代の声楽曲を聴く。
第5回	グルックとハイドン その肖像と作品の魅力	予習: グルック、ハイドンについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 同時代の声楽作品を様々な演奏で聴く。
第6回	モーツァルト その肖像と作品の魅力	予習: モーツァルトについて調べる。多岐にわたる 声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を楽譜を見ながら聴く。
第7回	ベートーヴェン その肖像と作品の魅力	予習: ベートーヴェンについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を楽譜を見ながら聴く。
第8回	シューベルト その肖像と作品の魅力	予習: シューベルトについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った声楽作品を実際に歌ってみる。
第9回	ロッシーニ その肖像と作品の魅力	予習: ロッシーニについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を様々な演奏で聴く。
第10回	ドニゼッティとベッリーニ その肖像と作品の魅力	予習: ドニゼッティとベッリーニについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を様々な演奏で聴く。ベルカントとは何かをまとめる。
第11回	シューマンとメンデルスゾーン その肖像と作品の魅力	予習: シューマンとメンデルスゾーンについて調べる。またその声楽作品を聴く 復習: 女性作曲家についての説明を復習。また、興味を持った声楽作品を様々な演奏で聴く。
第12回	ヴァーグナー その肖像と作品の魅力	予習: ヴァーグナーについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 音楽の特徴を理解する。様々な演奏で聴く。
第13回	ヴェルディ その肖像と作品の魅力	予習: ヴェルディについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 一生涯にわたる作品を理解する。 様々な作品を聴く。
第14回	オッフェンバッハとJ. シュトラウス その肖像と作品の魅力	予習: オッフェンバッハとJ. シュトラウスについて調べる。またその声楽作品を聴く 復習: オペレッタについて理解する。興味を持った作品を歌ってみる。
第15回	まとめ	予習: 各回のテーマを振り返り、この授業から学んだ事をプレゼンテーションするための資料作成をする。

科目名(クラス)		作曲家の肖像と作品の魅力 I B		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全
担当教員		山崎 明美	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】									
作曲家の肖像と作品の魅力 I Aにおいては、約1600年から約1850年までの声楽曲について講義をした。 作曲家の肖像と作品の魅力 I Bは、それ以降の年代の声楽曲を扱う。 歌とは何か、歌の可能性とは何か。時を超え、国を越えて私たちの耳に届く調べと共に、先人達の問いかけは続く。ロマン派後期から近現代の大きなうねりの中にいた作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとりながら、自らの答えを導きだしていくことを授業の目的とする。									
【授業の到達目標】									
クラシックの声楽曲の近現代を理解する。現代声楽曲への大きな転換期でもあり、様々な試みが行われた近現代の声楽曲の背景である時代、作曲家についての知識を持つ。 歴史を理解した上で、時代と共に変化する歌の捉え方を説明できる。歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べる事が出来る。前期授業後との変化はあったのか。それは何故なのかを述べる事が出来る。以上を到達目標とする。									
【授業の「方法」と「形式」】									
作曲家及びその時代について教授し、視聴覚機器も用いる。準備学習の成果を発表する機会も設ける。									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
各自が積極的に課題に取り組む必要がある。常に十分な準備学習を行い、発表の際は資料作成及び音源の選択もする事。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
成績評価は以下の三点により行う。 1. 授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど) 30% 2. 授業内でのプレゼンテーション 30% 3. 学期末の試験 40% 上記三項目のいずれもそろっていること。									
教科書		特定の教科書は用いない。授業の中で指示する。			著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献		授業中で指示する。			著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【授業計画・内容・準備学習】									
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)				
第1回	作曲家の肖像とその作品の魅力 I Aの振り返りを行う				予習: I Bに入る前に、I Aの復習を行う。I Aのシラバスを読み準備をすること。 復習: 講義の中で興味を持った事柄についてさらに深く学ぶ。				
第2回	ブラームス その肖像と作品の魅力				予習:ブラームスについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:興味を持った切り口について 調べ、様々な演奏を聴く。				
第3回	サンサーンスとビゼー その肖像と作品の魅力				予習:サンサーンスとビゼーについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:他のフランスオペラを聴く。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ドヴォルザークとチャイコフスキー その肖像と作品の魅力	予習:ドヴォルザークとチャイコフスキーについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:地域的広がりを見せる西洋音楽のあり方を理解する。
第5回	フォーレとサティ その肖像と作品の魅力	予習:フォーレとサティについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:授業で扱った他のフランス作曲家の声楽曲を聴く。
第6回	レオンカヴァッロとマスカーニ その肖像と作品の魅力	予習:レオンカヴァッロとマスカーニについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:ヴェリズモオペラを理解し、様々な演奏で聴く。
第7回	プッチーニ その肖像と作品の魅力	予習:プッチーニについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:プッチーニのオペラを一本鑑賞する。
第8回	R. シュトラウス その肖像と作品の魅力	予習:R. シュトラウスについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:オペラ、歌曲共に今なお愛されるシュトラウスの演奏に触れる。
第9回	ヴォルフとマーラー その肖像と作品の魅力	予習:ヴォルフとマーラーについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:興味を持った曲を楽譜を見ながら聞く。
第10回	シェーンベルクとその時代 その肖像と作品の魅力	予習:シェーンベルクについて調べる。 どんな歌曲作品があるか調べる。 復習:同時代の他の作曲家の作品を様々な演奏で聴く。
第11回	シェーンベルクと弟子達 その肖像と作品の魅力	予習:シェーンベルクの弟子としてどんな作曲家がいるか調べる。 復習:弟子たちの作品を聴く。
第12回	シュレーカーとコルンゴルド その肖像と作品の魅力	予習:シュレーカーとコルンゴルドについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:時代の流れに消えかかった作品、再び演奏されるようになった課程を理解する。
第13回	ガーシュイン その肖像と作品の魅力	予習:ガーシュインについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習:授業で取り上げたほかの作曲家の作品を聴く。
第14回	瀧廉太郎と山田耕筰 その肖像と作品の魅力	予習:瀧廉太郎と山田耕筰について調べる。その声楽曲を聴く。 復習:日本声楽作品の黎明期から発展期に移行する流れを整理しておく。
第15回	まとめ	予習:作曲家の肖像とその作品の魅力 I Bで学んだ事を整理する。 復習:興味を持ち、様々な演奏を聴き、楽譜を見て、演奏してみる。

科目名(クラス)	西洋音楽史A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	信田 かずお	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
音楽のボーダーレス化が著しい今。特に、ポップス領域として、「洋楽の歴史」を主体とした解説により、音楽の多様性に対する柔軟な対応力を養うことは、プロデュースするための実践力に繋がります。この授業では、1940年から2000年代までのアメリカ、EUのあらゆるジャンルのポップス音楽を紹介すると同時に、各国のトレンド音楽にも着目し、試聴していく。								
【授業の到達目標】								
幅広い欧州のポップス音楽の変遷を見聞き音楽知識を高めることで、プロデュース、およびディレクション能力を身につける。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式とともに、実践で当時の楽曲の作編曲の方法等を講義。また、CDやyoutube等を使用し動画と音楽をリンクさせる。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
遅刻早退は原則的に認めません。毎回の授業で各音楽ジャンルの印象や感想などをノートにまとめて下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による評価(70%)及び、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。								
教科書				著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	1940年から50年代のアメリカンポップ、オールデイズ等とその時代背景など検証。				シラバスを読んでおく			
第2回	その2と、エレキバンドの登場、ベンチャーズ他。				この授業をノートにまとめる			
第3回	その3と、ジャズコンテンツの歴史。ビッグバンド、コンボバンド。デイキシーランド。				この授業をノートにまとめる			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	その4と、スタンダードナンバーとは、ジャズボーカル、ジャズコーラスの歴史。	この授業をノートにまとめる
第5回	1960年代ビートルズの登場とグループサウンド。	この授業をノートにまとめる
第6回	その2、ローリングストーンズ他のロックバンド等を紹介。	この授業をノートにまとめる
第7回	その3と、イタリア、フランスのポップ。	この授業をノートにまとめる
第8回	フォークソング、カントリー音楽。	この授業をノートにまとめる
第9回	1960年代ビートルズの登場とグループサウンド。	この授業をノートにまとめる
第10回	その2と、モータウン音楽フランク音楽。	この授業をノートにまとめる
第11回	その3と、過去のグラミー賞受賞音楽。	この授業をノートにまとめる
第12回	1970年代ヒット曲。	この授業をノートにまとめる
第13回	その2とブルスロック。	この授業をノートにまとめる
第14回	1980年代ヒット曲。	この授業をノートにまとめる
第15回	その2と現代各国トレンド試聴。	この授業をノートにまとめる

科目名(クラス)	西洋音楽史B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	信田 かずお	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
音楽のボーダーレス化が著しい今。特に、ポップス領域として、「洋楽の歴史」を主体とした解説により、音楽の多様性に対する柔軟な対応力を養うことは、プロデュースするための実践力に繋がります。この授業では、1940年から2000年代までのアメリカ、EUのあらゆるジャンルのポップス音楽を紹介すると同時に、各国のトレンド音楽にも着目し、試聴していく。								
【授業の到達目標】								
幅広い欧州のポップス音楽の変遷を見聞し音楽知識を高めることで、プロデュース、およびディレクション能力を身につける。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式とともに、実践で当時の楽曲の作編曲の方法等を講義。また、CDやyoutube等を使用し動画と音楽をリンクさせる。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
遅刻早退は原則的に認めません。毎回の授業で各音楽ジャンルの印象や感想などをノートにまとめて下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による評価(70%)及び、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ラテン音楽、ボサノヴァ。現代各国トレンド試聴。			シラバスを読んでおく				
第2回	その2			この授業をノートにまとめる				
第3回	その3			この授業をノートにまとめる				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ダンス音楽コンテンツ、ラップ。	この授業をノートにまとめる
第5回	その2とアルゼンチンタンゴ。	この授業をノートにまとめる
第6回	その3と、歴代ミリオンヒット曲試聴。	この授業をノートにまとめる
第7回	1900年代ヒットポップとAOR,ブラコンとは。	この授業をノートにまとめる
第8回	その2と、各国トレンドポップ。	この授業をノートにまとめる
第9回	その3。	この授業をノートにまとめる
第10回	アメリカアニメ音楽の歴史。	この授業をノートにまとめる
第11回	その2	この授業をノートにまとめる
第12回	映画音楽アメリカ、ヨーロッパメインテーマ。	この授業をノートにまとめる
第13回	その2と、映画音楽作曲家。	この授業をノートにまとめる
第14回	その3と、CM音楽	この授業をノートにまとめる
第15回	総まとめ	この授業をノートにまとめる

科目名(クラス)	東洋音楽史A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	櫻田 素子	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
・日本が位置する「東洋」における音楽を、人間の営みという観点から多角的にとらえ、歴史の流れに沿いながら学びます。 ・東洋を広義的にとらえ、アジアを中心に、非西洋世界であるオセアニア、アフリカ、アメリカ地域も含めて扱います。 ・現在、日本で盛んに行われているアジアとの交流を含むグローバルな音楽活動の基礎となる、幅広い音楽知識を身につけ、音楽と人に関する理解を深めて柔軟な音楽観を養うことを目指します。								
【授業の到達目標】								
・東洋、非西洋のさまざまな音楽の成り立ちや構成要素、音楽理論を知ること、音楽全般をいくつかの視点から考察して深く理解することができるようになる。 ・授業を通して得た知識や理解を活用し、自らの考察の展開や表現活動に生かすことができるようになる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義とDVD・CD・ICT等視聴覚教材の視聴を中心に、楽器の実物紹介や実演体験、学生と教員あるいは学生間によるディスカッションも随時取り入れて行ないます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
・講義や資料の視聴の際には、自らの感じたことや意見などもこまめにメモを取り、集中して考えながら授業にのぞむこと。 ・授業内で紹介する視聴覚資料をはじめ、関連する音楽を幅広くよく見聴きすること。 ・地域の各論を展開しその魅力を探求する後期の授業「東洋音楽史B」と合わせて履修し、知識の獲得と理解を深めましょう。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、小レポート等の課題への取り組みなど)50% ・期末レポート提出50%								
教科書	民族音楽12の視点		著者等	徳丸吉彦 監修 増野亜子 編		出版社	音楽之友社	
教科書	適宜プリントを配布		著者等			出版社		
参考文献	はじめての世界音楽		著者等	柘植元一・塚田健一 編		出版社	音楽之友社	
参考文献	事典世界音楽の本		著者等	徳丸吉彦 他		出版社	岩波書店	
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	はじめに～世界の中の東洋・非西洋～「ワールド・ミュージックス」とは？				予習:シラバスを読み、各回の内容を確認しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。			
第2回	東洋の音楽を識る・考える基礎(1)～リズムと身体(足、手、声)				予習:リズムとは何か、また、音楽と身体の関係性について、自分なりに考察しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。			
第3回	東洋の音楽を識る・考える基礎(2)～音響・環境				予習:音響とは何かについて、事典などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	東洋の音楽を識る・考える基礎(3)～音程・音律・旋律	予習:音律とは何かについて、事典などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第5回	東洋の音楽を識る・考える基礎(4)～伝承の方法、記譜法	予習:五線譜以外の楽譜について、自らが経験したことがあれば、それを授業に持参するよう準備する。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第6回	東洋の音楽を識る・考える基礎(5)～舞踊・芸能と音楽	予習:芸能とは何かについて、事典などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第7回	東洋の音楽を識る・考える基礎(5)～社会と音楽、芸術と大衆娯楽	予習:自分の身の周りにある芸術音楽と大衆娯楽音楽について、どんなものがあるか書き出してみる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第8回	東洋の音楽の時空をたどる(1)～楽器の伝播	予習:前回紹介した文献や資料を読み、視聴しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第9回	東洋の音楽の時空をたどる(2)～儀礼と宗教	予習:「儀礼」とは何か、世界に存在する宗教にはどんなものがあるか、事典などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第10回	東洋の音楽の時空をたどる(3)～世界史・東洋史と音楽	予習:世界の歴史の概要について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第11回	非西洋としての東洋(1)～オセアニアの音楽の歩み	予習:オセアニアの地理、気候、文化の概要について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第12回	非西洋としての東洋(2)～アフリカ大陸の音楽の歩み	予習:アフリカの地理、気候、文化の概要について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第13回	非西洋としての東洋(3)～北・中央・南アメリカの音楽の歩み	予習:北米・中米・南米の地理、気候、文化の概要について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第14回	21世紀の東洋音楽の行方～グローバルゼイション、フュージョン文化	予習:グローバルゼイション、フュージョンという言葉について事典や文献資料などで調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。
第15回	まとめ～「音楽する」人間の歩み	予習:これまでの授業の内容を振り返る。 復習:授業で学んだことを活用し、音楽のとらえ方や表現手法について、さまざまな視点からの探求を続ける。

科目名(クラス)		東洋音楽史B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	全
担当教員		櫻田 素子	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】									
・日本が位置する「東洋」における音楽を、アジア各地域に焦点をあて、歴史の流れに沿いながら学びます。 ・メディアの発達による情報の世界同時性化に伴い、音楽も、文化のグローバル化の波に影響される一方で、再度クローズアップされるのは個性あふれるローカルな音楽。アジア各地の音楽の魅力を発見し、その特徴的な音楽理論や音楽観などについての知識も探求します。									
【授業の到達目標】									
・東洋(アジア各地)の特徴的な音楽の成り立ちや構成要素、音楽理論を知り、各種の音楽がその地に生きている人々の文化と密接に結びついて発展、継承されてきたことを深く理解する。 ・授業を通して得た知識や理解を活用し、自らの考察の展開や表現活動に生かすことができるようになる。									
【授業の「方法」と「形式」】									
講義とDVD・CD・ICT等視聴覚教材の視聴を中心に、楽器の実物紹介や実演体験、学生と教員あるいは学生間によるディスカッションも随時取り入れて行ないます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
・講義や資料の視聴の際には、自らの感じたことや意見などもこまめにメモを取り、集中して考えながら授業にのぞむこと。 ・授業内で紹介する視聴覚資料をはじめ、関連する音楽を幅広くよく見聴きすること。 ・東洋の音楽を基礎から多角的な視点で分析する前期の授業「東洋音楽史A」と合わせて履修し、より広く深い学びに繋げましょう。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、小レポート等の課題への取り組みなど)50% ・期末レポート50%									
教科書	はじめての世界音楽			著者等	柘植元一・塚田健一 編		出版社	音楽之友社	
教科書	適宜プリントを配布			著者等			出版社		
参考文献	アジア音楽史			著者等	柘植元一・植村幸生 編		出版社	音楽之友社	
参考文献	民族音楽概論			著者等	藤井知昭 他 編		出版社	東京書籍	
【授業計画・内容・準備学習】									
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)				
第1回	はじめに～東洋をローカルに見つめる～この授業で学ぶこと				予習:シラバスを読み、各回の内容を確認しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、考えを深める。				
第2回	人と音楽の歩み<西アジア>～古代オリエントから現代まで				予習:西アジアの地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。				
第3回	人と音楽の歩み<北・中央アジア>～シベリア・モンゴル				予習:北・中央アジアの地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	人と音楽の歩み<中国(1)>～古代・中世	予習:中国の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第5回	人と音楽の歩み<中国(2)>～近現代	予習:前回に紹介した文献を読む。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第6回	人と音楽の歩み<中国(3)>～少数民族	予習:中国の少数民族が暮らす地域について、地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第7回	人と音楽の歩み<朝鮮半島>～韓国	予習:朝鮮半島の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第8回	人と音楽の歩み<南アジア>～南北インド	予習:インドとその周辺地域の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第9回	人と音楽の歩み<東南アジア・大陸部>(1)タイ・ミャンマー・カンボジア	予習:インドシナ半島の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第10回	人と音楽の歩み<東南アジア・大陸部>(2)マレーシア・シンガポール	予習:前回に紹介した文献を読む。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第11回	人と音楽の歩み<東南アジア・島嶼部>(1)インドネシアのガムラン	予習:インドネシアの地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第12回	人と音楽の歩み<東南アジア・島嶼部>(2)インドネシアの諸民族・フィリピン	予習:フィリピンの地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第13回	人と音楽の歩み<台湾、琉球・沖縄>	予習:台湾と沖縄の地理、気候、文化、歴史を事典や文献で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第14回	東洋における日本～フュージョンするアートと知	予習:前回に紹介した文献を読む。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、理解を深める。
第15回	まとめ～東洋とそれぞれの「私」	予習:これまでの授業の内容を振り返る。 復習:授業で学んだことを活用し、東洋の音楽とその音楽を生み出す人々の営みについて、さまざまな視点からの探求を続ける。

科目名(クラス)	日本音楽史A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	阿部 雅士	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】								
歌い継がれてきた日本の音楽の変遷を分析し 展開します。音楽のジャンルは明治以降からの童謡、民謡、歌謡曲、ムード歌謡、和製ポップス、GS、フォーク、ニューミュージック、J-POP、邦ロックなど今に至るまでの日本の楽曲を中心に取り上げる。それは多くのアーティストの音楽制作や同じステージに関わった経験からの新しい目線、切り口で取り上げ、その上に音楽の様々な見方、ユーザー(聴衆等)からの反応やメッセージの交換などを捉え授業を展開する。								
【授業の到達目標】								
日本の音楽の歩みや仕組の変化等を知り事により 幅広く視野を広げ 日本の音楽のシーンで役に立つ分析力、応用力を付ける事。それにより音楽シーンを広める色々なアイデアとともに、日本のエンタメ系音楽の変遷を知る事により世界に通用するエンタメはなにか？を描けるスタートになりたい。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式が主です。(DVD,CD等の鑑賞も取り入れます)								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
いろいろな年代に話題になった曲やアーティスト曲や名前、それに多様な部分に興味を持って欲しい。その時アーティストの想いや聞く人の想いとは何か？更には「社会と音楽」、「時代と音楽」と観察する事を始めてほしい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度(30%)。								
教科書			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	音楽に対する見方とスタンス。流行歌の始まり。				シラバスを読んでおく。			
第2回	日本の音楽の変遷と録音物①(昭和の前半まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第3回	日本の音楽の変遷と録音物②(1970年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第4回	歌手、作家① (1970年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第5回	日本の音楽の変遷と録音物③(1990年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第6回	日本の音楽の変遷と録音物④(1990年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第7回	歌手、作家②(1990年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第8回	レコーディングの変遷①(1990年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第9回	レコーディングの変遷②コンサートの変遷(1990年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第10回	日本の音楽の変遷と録音物⑤(2000年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第11回	日本の音楽の変遷と録音物⑥(2000年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第12回	歌手、作家③(2000年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第13回	歌手、作家④(2000年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第14回	1900年代音楽の財産				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第15回	ヒット曲とランキング				授業の内容を自分なりにまとめる。			

科目名(クラス)	日本音楽史B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	阿部 雅士	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】		歌い継がれてきた日本の音楽の変遷を分析し 展開します。音楽のジャンルは明治以降からの童謡、民謡、歌謡曲、ムード歌謡、和製ポップス、GS、フォーク、ニューミュージック、J-POP、邦ロックなど今に至るまでの日本の楽曲を中心に引き上げる。それは多くのアーティストの音楽制作や同じステージに関わった経験からの新しい目線、切り口で引き上げ、その上に音楽の様々な見方、ユーザー(聴衆等)からの反応やメッセージの交換などを捉え授業を展開する。それとともに 音楽プロデューサーやディレクターとして、演奏家の立場や権利を知る事は重要で、そういった観点から「演奏家・アーティストの知的財産権の中の著作権、著作隣接権」の授業も展開します。						
【授業の到達目標】		日本の音楽の歩みや仕組の変化等を知り事により 幅広く視野を広げ 日本の音楽のシーンで役に立つ分析力、応用力を付ける事。それにより音楽シーンを広める色々なアイデアとともに、日本のエンタメ系音楽の変遷を知る事により世界に通用するエンタメはなにか？を描けるスタートになりたい。						
【授業の「方法」と「形式」】		講義形式が主です。(DVD,CD等の鑑賞も取り入れます)						
【履修時の「留意点」と「心得」】		いろいろな年代に話題になった曲やアーティスト曲や名前、それに多様な部分に興味を持って欲しい。その時アーティストの想いや聞く人の想いとは何か？更には「社会と音楽」、「時代と音楽」と観察する事を始めてほしい。						
【成績評価の「方法」と「基準」】		課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度(30%)。						
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	日本の音楽の変遷と録音物⑦(2010年頃まで)				シラバスを読んでおく。			
第2回	日本の音楽の変遷と録音物⑧(2010年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第3回	歌手、作家⑤(～2010年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第4回	歌手、作家⑥(～2010年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第5回	レコーディングの変遷③(2010年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第6回	レコーディングの変遷④コンサートの変遷(2010年頃まで)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第7回	日本の音楽の変遷と録音物⑨(2010年以降)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第8回	歌手、作家⑦(2010年以降)				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第9回	ヒット曲とランキング				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第10回	レコーディングの変遷とミュージシャン①				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第11回	楽器、デジタル、アナログ①				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第12回	音楽とAI				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第13回	知的財産権①				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第14回	今の音楽とライブとメディアの関係				授業の内容を自分なりにまとめる。			
第15回	これからの音楽の世界				授業の内容を自分なりにまとめる。			

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	白石 茂浩	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
音楽の基礎理論については他にも音楽通論・楽理等いくつかの呼称があるがその一つに『楽典』があり、これは『music grammar』の訳語である。このことから音楽の基礎理論で学ぶ内容を簡潔に説明するならばそれは『音楽の文法』となる。そしてこの音楽の文法学習は語学の文法学習がそうであるように、書き方・読み方に該当する『近代五線記譜法』、文の構成法や構造について解説する部分にあたる『和声法』『楽式論』など理論的教科からなっている。この授業では、これらの内容を学び理解を深めるための一助として音楽史の話や観賞を交えて授業を進めていく。基礎理論Aでは近代五線記譜法・基礎的な用語の学習が中心となる。								
【授業の到達目標】								
近代五線記譜法および理論に関する基礎的な理解。								
【授業の「方法」と「形式」】								
基本的に講義形式を採るが、意見の発表を求めることがある。また必要に応じて課題実習を行う場合もある。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと、意見発表を求められた場合の発表、理解が難しい点が出てきた場合や予習・復習を行う中で疑問点が出てきた場合の質問を積極的に行うことを習慣とするよう心がけてもらいたい。また、基礎理論Aで学ぶ内容は基礎理論Bの授業を受けるにあたって必要不可欠なものばかりなので、習得漏れがないようにすること。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
試験、授業中に行う小テストへの評価70%。授業への取り組み姿勢(積極性)30%。 具体的な試験の内容については実施直前の授業で通知する。								
教科書	授業内容をまとめたものを配布する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献	図解音楽事典			著者等		出版社	白水社	
参考文献	大作曲家の和声			著者等	ディーター・デ・ラ・モッテ	出版社	シンフォニア	
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	授業の進め方の説明／これまでに学んできた内容の確認				準備:これまでに学んできた内容を教員に伝えられるよう、確認しておく。			
第2回	近代西洋音楽(近代西洋音楽の特徴について簡単に述べる)				予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。			
第3回	近代五線記譜法Ⅰ(音符・休符／拍子)				予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	小テスト1(音符・休符／拍子) 近代五線記譜法Ⅱ(音名／音階)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第5回	小テスト2(音名／音階) 音程	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第6回	小テスト3(音程) 音階	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第7回	調・音律	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第8回	小テスト4(調号／音程) 近代五線記譜法Ⅲ(強弱を示すための記号(強弱記号)と語など)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第9回	和音と非和声音Ⅰ	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第10回	和音と非和声音Ⅱ	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第11回	小テスト5(和音) 音楽の構造について	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第12回	近代西洋音楽の成立までと成立後Ⅰ(中世)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第13回	近代西洋音楽の成立までと成立後Ⅱ(ルネサンス)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第14回	近代西洋音楽の成立までと成立後Ⅲ(バロック・古典派)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第15回	前期のまとめ(試験を実施し、学んできた内容の習得度を確認する)	予習:試験の準備。 復習:後期に備え、これまでに学んできた内容を確実なものにしておく。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	白石 茂浩	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】							
基礎理論Bでは機能的和声法(和声音楽とされる近代西洋音楽の骨格をなす和声法であり、調的和声法とも呼ばれる)を中心に近代西洋音楽の構成法について学ぶ。							
【授業の到達目標】							
近代西洋音楽の構成法の基本的理解。							
【授業の「方法」と「形式」】							
基本的に講義形式を採るが、意見の発表を求めることがある。また課題実習・小レポート提出を求める場合もある。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと、意見発表を求められた場合の発表、理解が難しい点が出てきた場合や予習・復習を行う中で疑問点が出てきた場合の質問を積極的に行うことを習慣とするよう心がけてもらいたい。なお基礎理論Bでは観賞が増えるので授業時間外にも積極的に指定された曲を聴くようにすること。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
後期試験としてのレポートへの評価60%。授業への取り組み姿勢および授業中の意見発表・課題への評価40%。 具体的なレポートの内容については授業で通知する。レポートは第15回の授業で発表を行ったのちに提出してもらう。							
教科書	授業内容をまとめたものを配布する。		著者等		出版社		
教科書			著者等		出版社		
参考文献	図解音楽事典		著者等		出版社	白水社	
参考文献	大作曲家の和声		著者等	ディーター・デ・ラ・モッテ	出版社	シンフォニア	
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	機能的和声法Ⅰ(基礎知識)			予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。			
第2回	機能的和声法Ⅱ(三和音の転回形／終止)			予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。			
第3回	機能的和声法Ⅲ(七の和音／反復進行／借用和音)			予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	和声的対位法(概要)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第5回	主要形式Ⅰ(カノン／フーガ)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第6回	主要形式Ⅱ(リート形式)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第7回	機能的和声法Ⅳ(変位和音)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第8回	主要形式Ⅲ-1(ロンド形式／ソナタ形式)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第9回	主要形式Ⅲ-2(ロンド形式／ソナタ形式)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第10回	主要形式Ⅳ-1(複数の曲・楽章からなる曲種)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第11回	主要形式Ⅳ-2(複数の曲・楽章からなる曲種)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第12回	近代西洋音楽の成立までと成立後Ⅳ(19世紀) 機能的和声法Ⅲ(和音機能の読み替えによる転調)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第13回	ドラマティックな表現	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第14回	近代西洋音楽の成立までと成立後Ⅴ(20世紀)	予習:配布プリントの該当箇所を読んでおく。 復習:授業で学んだ内容の再確認。
第15回	まとめ(レポート発表) (レポートは発表後に提出)	予習:レポート発表準備。

科目名(クラス)	P.A.C.S 1		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
エンターテインメントを含む芸術作品が、どのような歴史や社会を背景として持っているのかを映像化された作品を通じて考察していきます。ヨーロッパ、アメリカ、日本で親しまれている文学、演劇、映画を鑑賞し解説する。								
【授業の到達目標】								
取り上げる作品の歴史や社会背景を理解し、それぞれが持っている文化的意味を明確に理解する。								
【授業の「方法」と「形式」】								
取り上げる作品の概説と意味を説明し、その考察結果をコメントシートにまとめる訓練を毎回行う。基本的にゼミ形式で進めます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
映像作品に興味を持ち、同時代の作品を比較しながら、各作品の多様な解釈を試みて下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・各回のコメントシート(20%) ・与えられた課題のプレゼンテーション(30%) ・レポート課題(2回)(50%)								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	映画作品と原作を文学的な方法論でどのように読み解くのか？			(予習)自分の好きな映像作品について考えておく。 (復習)学んだ方法を用いて好きな作品を読み解いてみる。				
第2回	エーミールと探偵たち① (推理小説と社会)			(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を読んでいる。				
第3回	エーミールと探偵たち② (子供と教育)			(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ハリーポッター① (ファンタジーと社会)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第5回	ハリーポッター② (多様性と制度)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第6回	秘密の花園① (父性と自律性)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第7回	秘密の花園② (ジェンダーと社会)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第8回	レ・ミゼラブル① (近代と道徳)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第9回	レ・ミゼラブル② (産業革命前夜の社会)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第10回	夏の庭① (「子供」の成立)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第11回	夏の庭② (死と生)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第12回	西の魔女が死んだ① (人間と自然)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を読んでもみる。
第13回	西の魔女が死んだ② (現代を生きる意味)	(予習)映像をしてみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第14回	まとめ① ー子供の視点から見た世界ー	(予習)児童文学の読み方を考えてみる。 (復習)「子供」の視点から一作品を解釈してみる。
第15回	まとめ② ー個としての自律性を考えるー	(予習)「意味」の成立についてまとめてみる。 (復習)芸術作品の「読み」とは何かを考察してみる。

科目名(クラス)	P.A.C.S 2		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
エンターテインメントを含む芸術作品が、どのような歴史や社会を背景として持っているのかを映像化された作品を通じて考察していきます。ヨーロッパ、アメリカ、日本で親しまれている文学、演劇、映画を鑑賞し解説する。								
【授業の到達目標】								
取り上げる作品の歴史や社会背景を理解し、それぞれが持っている文化的意味を明確に理解する。								
【授業の「方法」と「形式」】								
取り上げる作品の概説と意味を説明し、その考察結果をコメントシートにまとめる訓練を毎回行う。基本的にゼミ形式で進めます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
映像作品に興味を持ち、同時代の作品を比較しながら、各作品の多様な解釈を試みて下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
・各回のコメントシート(20%) ・与えられた課題のプレゼンテーション(30%) ・レポート課題(2回)(50%)								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ヨーロッパ、アメリカ、ラテンアメリカ、そして日本の文学の概観とエンターテインメントの現状について			(予習)自分の好きな領域の文学やエンタメを考えておく。 (復習)各国の文学の特徴をまとめる。				
第2回	グレート・ギャツビー (フィッツジェラルド)			(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。				
第3回	ライ麦畑でつかまえて (サリンジャー)			(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	ティファニーで朝食を (カポーティー)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第5回	若きヴェルテルの悩み (ゲーテ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第6回	車輪の下 (ヘッセ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第7回	マルテの手記 (リルケ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第8回	変身 (カフカ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第9回	罪と罰 (ドストエフスキー)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第10回	桜の園 (チェーホフ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第11回	赤と黒 (スタンダール)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第12回	モンテニクリスト伯 (デュマ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第13回	狭き門 (ジイド)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第14回	異邦人 (カミュ)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第15回	まとめ	(予習)一作品を取り上げて学んだ方法論で解釈 してみる。 (復習)他の方法論で取り上げた作品を解釈 してみる。

科目名(クラス)		ポップス・ボーカルアプローチA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員		仁科 かおり		履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術文化専攻			
【授業の概要】									
芸術音楽、伝統音楽とは異なる、音楽産業を通して多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの歴史を『歌唱』を通じて学びます。 1950年から現代までのポップスを、10年ごとに海外、日本、双方の歴史に触れ、背景にはどんな出来事が起こっていたかなどを検証します。前期に関しては主に新しいジャンルが派生していく過程を追っていきます。 関連性、運動性、日本のポップスにおける独自性にも着目、未来における変化を予測するヒントとし、現在の音楽業界にとって必要なものは何か考えます。									
【授業の到達目標】									
それぞれの時代の代表楽曲を実技歌唱、メロ譜作成することにより、その時代になぜ流行したのかじっくりと考えます。 音楽業界に携わる人間として、まず共同制作者たちへ伝達能力(音楽知識、楽譜力)を身に付け、自らの構想を投影した作品を観客へ送り出せるよう、次世代の表現者としてパフォーマンス能力だけではなくプロデュース能力も高めます。 知る、書く、表現する、このシンプルな3段階を実施し、伝える力へと繋げていきます。									
【授業の「方法」と「形式」】									
講義、DVDなど動画鑑賞、歌唱実践トレーニング メロディー譜作成									
【履修時の「留意点」と「心得」】									
基本的に声で自己表現が目的の授業になりますので、おひとり又は少人数での歌唱、朗読の場面も出てきます。 強要は致しませんが、積極的な参加を望みます。 風邪などで声が出なくなった方、発声トレーニングが悪化の原因になる可能性があります。 また呼吸法などで他の生徒さんにも感染しやすくなります。決して無理をせず完治してから出席してください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】									
課題による採点(70%)及び、授業への積極性。(30%)									
課題 カバー曲によるセルフプロデュース作品の企画書作成。(手書き、パソコン作成どちらでも可)									
教科書					著者等		出版社		
教科書					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】									
回数	授 業 内 容					準備学習(予習・復習)			
第1回	基礎ボイストレーニング(身体トレーニング)					復習 身体トレーニングを覚える			
第2回	基礎ボイストレーニング(歌唱トレーニング)					復習 歌唱トレーニングを覚える			
第3回	1950年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)					復習 代表曲メロ譜を仕上げる			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	1950年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	予習 代表曲の歌唱
第5回	1950年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第6回	1950年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	予習 代表曲の歌唱
第7回	1960年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ロック、モータウン、ボサノバなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第8回	1960年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ロック、モータウン、ボサノバなど)	予習 代表曲の歌唱
第9回	1960年代 日本のポップスシーンについて 前編 (歌謡曲、演歌 グループサウンズなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第10回	1960年代 日本のポップスシーンについて 後編 (歌謡曲、演歌 グループサウンズなど)	予習 代表曲の歌唱
第11回	1970年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ハードロック パンク ファンクなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第12回	1970年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ハードロック パンク ファンクなど)	予習 代表曲の歌唱
第13回	1970年代 日本のポップスシーンについて 前編 (演歌 ニューミュージック アイドルなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第14回	1970年代 日本のポップスシーンについて 後編 (演歌 ニューミュージック アイドルなど)	予習 代表曲の歌唱
第15回	カバー曲でセルフプロデュースしてみよう(前期の曲から選択) (自分自身を生かすポイントを考え、企画書作成する)	復習 企画書を期日までに提出

科目名(クラス)	ポップス・ボーカルアプローチB		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	仁科 かおり	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】								
芸術音楽、伝統音楽とは異なる、音楽産業を通して多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの歴史を『歌唱』を通じて学びます。 1950年から現代までのポップスを、10年ごとに海外、日本、双方の歴史に触れ、背景にはどんな出来事が起こっていたかなどを検証します。後期は音楽供給形態の変化、ブーム、ヒットの仕掛けなどに焦点をあてます 関連性、運動性、日本のポップスにおける独自性にも着目、未来における変化を予測するヒントとし、現在の音楽業界にとって必要なものは何かを考えます。								
【授業の到達目標】								
それぞれの時代の代表楽曲を実技歌唱、メロ譜作成することにより、その時代になぜ流行したのかじっくりと考えます。 音楽業界に携わる人間として、まず共同制作者たちへの伝達能力を身に付け、自らの構想を投影した作品を観客へ送り出せるよう、次世代の表現者としてパフォーマンス能力だけでなくプロデュース能力も高めます。 知る、書く、表現する、このシンプルな3段階を実施し、伝える力へと繋げていきます。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、DVDなど動画鑑賞、歌唱実践トレーニング メロディー譜作成								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
基本的に声で自己表現が目的の授業になりますので、おひとり又は少人数での歌唱、朗読の場面も出てきます。 強要は致しませんが、積極的な参加を望みます。 風邪などで声が出なくなった方、発声トレーニングが悪化の原因になる可能性があります。 また呼吸法などで他の生徒さんにも感染しやすくなります。決して無理をせず完治してから出席してください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性。(30%)								
課題 カバー曲によるセルフプロデュース作品の企画書作成。(手書き、パソコン作成どちらでも可)								
教科書			著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	1980年代 海外のポップスシーンについて 前編 (MTV全盛期 CD登場)				復習 代表曲メロ譜を仕上げる			
第2回	1980年代 海外のポップスシーンについて 後編 (MTV全盛期 CD登場)				予習 代表曲の歌唱			
第3回	1980年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ランキング番組全盛期)				復習 代表曲メロ譜を仕上げる			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第4回	1980年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ランキング番組全盛期)	予習 代表曲の歌唱
第5回	1990年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ダンスミュージックブーム プロソールス登場)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第6回	1990年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ダンスミュージックブーム プロソールス登場)	予習 代表曲の歌唱
第7回	1990年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ドラマ CM タイアップソング全盛期)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第8回	1990年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ドラマ CM タイアップソング全盛期)	予習 代表曲の歌唱
第9回	2000年代 海外のポップスシーンについて (多様化するジャンル 音楽配信の普及)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第10回	2000年代 海外のポップスシーンについて 後編 (多様化するジャンル 音楽配信の普及)	予習 代表曲の歌唱
第11回	2000年代 日本のポップスシーンについて 前編 (アニソン全盛期)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第12回	2000年代 日本のポップスシーンについて 後編 (アニソン全盛期)	予習 代表曲の歌唱
第13回	2010年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ボーカロイド 集団アイドルブーム)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第14回	2010年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ボーカロイド 集団アイドルブーム)	予習 代表曲の歌唱
第15回	将来プロデュースしたい作品について考える (アピールポイント 戦略などを考え、企画書作成する)	復習 企画書を期日までに提出

科目名	ヒューマンコミュニケーション1・2・3・4		
【授業計画の概要】			
本学の学生は、建学の精神である「音楽芸術の研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」を学び、更に幅広く、深い教養を身につけることにより現代社会の中で、音楽に関わる者として知的創造性を高め、人間への深い理解を持ってコミュニケーションを図ることが重要である。それによって形成される広い視野の中で、音楽表現の実践や音楽教育は生きたものになると考える。 このような理念の実践の場として下記の通り必修科目〔各学年1単位〕を設定する。			
【授業の到達目標】			
音楽を学ぶ者として広い視野を修得し、自分の音楽活動を更に高めることが出来る。			
【成績評価の方法】			
授業内容を総合的に評価する。			
【授業計画の内容】			
月	内 容		
4	【目標】 1) 行事に参加する中から責任を持って成し遂げたよろこびを体験する ・行事の意義を十分に理解し、積極的に参加し、協力し、本学学生として参加したことに喜びを見出す。 ・計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階までそれぞれにおいて創意工夫し、責任を持って遂行することの大切さを自覚し、友人とのコミュニケーションをはかる中において、社会人としての自覚を養う。 2) 音楽活動等の体験を通じたボランティア活動を実施することによって、社会に貢献し、人間形成の育成をはかる。 ・本学で学んだ音楽的感性、豊かな情操を学園の内外において一人一人の学生が自ら参加し、ボランティア活動等の奉仕にかかわる体験活動を通して社会性を身につける。 【単位】 ポイント制により年間15ポイント以上取得することで1単位認定する。〔尚、余剰ポイントは次年度には、繰り越さない〕単位履修のためのポイント項目東邦祭・定期研究発表演奏会・公開講座・大学短大の認めた演奏会・大学短大の認めたコンクール・大学短大の認めたボランティア活動、及び大学短大の認めた上記項目に類するもの。 〔各項目のポイント数は、別途定め告示する。〕		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			